



InterSafe WebFilter Ver9.1

バージョンアップ ユーザーズガイド

Linux 編

目次

| | |
|--------------------------------------|-----------|
| 1. はじめに | 4 |
| 1-1. バージョンアップについて | 4 |
| 1-2. 各バージョンプログラム入手方法について | 4 |
| 2. 単体構成+同一筐体でのバージョンアップ手順 | 5 |
| 2-1. バージョンアップ作業項目について | 5 |
| 移行環境 | 5 |
| 作業項目一覧 | 5 |
| 2-2. サービスの停止/起動について | 6 |
| 2-3. 既存設定のバックアップ | 6 |
| 2-4. マスタサーバの上書きインストール | 7 |
| 2-5. 注意事項の確認/設定 | 8 |
| 2-6. URL DB ダウンロード | 9 |
| 3. 複数台構成+同一筐体でのバージョンアップ手順 | 10 |
| 3-1. バージョンアップ作業項目について | 10 |
| 移行環境 | 10 |
| 作業項目一覧 | 10 |
| 3-2. スレーブサーバのサービスの停止/起動について | 10 |
| 3-3. スレーブサーバの既存設定のバックアップ | 11 |
| 3-4. スレーブサーバの上書きインストール | 11 |
| 3-5. URL DB ダウンロード | 13 |
| 4. OS バージョン変更や別筐体でのバージョンアップ手順 | 14 |
| 4-1. バージョンアップ作業項目について | 14 |
| 移行環境 | 14 |
| 前提条件 | 14 |
| 作業項目一覧 | 15 |
| 4-2. バージョンアップ手順 | 16 |
| マスタサーバの構築 | 16 |
| スレーブサーバの構築 | 18 |
| 5. 製品変更を伴うバージョンアップについて | 23 |
| Squid のインストール | 23 |
| Squid の設定 | 23 |
| 6. 異なる OS 間や別筐体でのバージョンアップ手順 | 24 |
| 6-1. バージョンアップ作業項目について | 24 |
| 移行環境 | 24 |
| 前提条件 | 24 |
| 作業項目一覧 | 25 |
| 6-2. バージョンアップ手順 | 25 |

| | |
|---|-----------|
| 既存サーバのバージョンアップ | 25 |
| 設定ファイルの保存 | 30 |
| 新規サーバの構築 | 30 |
| 設定ファイルの復旧 | 33 |
| 注意事項の確認/設定 | 34 |
| URL DB ダウンロード | 34 |
| 7. 障害時のリカバリについて | 35 |
| スレーブサーバのリカバリについて | 35 |
| 8. Ver9.1 での変更内容について | 36 |
| 8-1. 注意事項 | 36 |
| 8-2. バージョンアップによる機能追加 | 36 |
| 8-3. 設定ファイルの違い | 36 |
| 9. バージョンアップ時の FAQ | 37 |
| 10. InterSafe WebFilter サポート窓口について | 38 |

1. はじめに

本マニュアルでは、InterSafe WebFilter(以下、WebFilter と記載)を Ver9.1 へバージョンアップを行う場合の手順について説明をしています。なお、Ver5.0~Ver9.0 SP1 から Ver9.1 へのバージョンアップも同様の手順で実施可能です。

操作手順の中に、WebFilter のマニュアルを参照する説明がありますので、WebFilter の管理者マニュアルを準備してください。Ver9.1 SP1 の変更点については、『8.Ver9.1 SP1 での変更内容について』を参照してください。

1-1. バージョンアップについて

Ver9.1 のプログラムでは、Ver5.0 以降から直接設定情報を保持したままバージョンアップを行うことが可能です。

本マニュアルでは、各章ごとに、マスタ単体の場合は『2.単体構成+同一筐体でのバージョンアップ手順』、マスタ/スレーブサーバ構成の場合は『3.複数台構成+同一筐体でのバージョンアップ手順』、Windows → Linux など OS の変更を伴う場合は『エラー! 参照元が見つかりません。OS バージョン変更や別筐体でのバージョンアップ手順』にて、それぞれの手順を説明します。

- Ver8.0 以降では Squid 版は未販売のため、Ver7.0 までの Squid 版をご利用のお客様は Ver9.1 ICAP 版へのバージョンアップとなります。
- マスタサーバとスレーブサーバは同一 OS、同スペック、同一の InterSafe WebFilter バージョン・製品にて運用することを前提としています。
- 製品の移行(ICAP 版 → Proxy 版、Proxy 版 → ICAP 版)についてはサポート対象外となります。

1-2. 各バージョンプログラム入手方法について

各バージョンのプログラムを入手するには、以下の URL にアクセスしてください。

<InterSafe WebFilter 試用版申し込みソフトウェアダウンロードサイト>

<https://alsi-iss.jp/download/intersafe/>

図 1-1



- 1) [InterSafe WebFilter 製品ダウンロード]をクリックします。
 - 2) ユーザ名とパスワードを入力する画面が表示されますので、各項目に入力し[OK]をクリックします。
- ログインするためのユーザ名とパスワードが不明な方は、ssg@alsi.co.jp までお問い合わせください。
- 3) ユーザ専用ダウンロードページが表示されますので、必要なバージョンの WebFilter をダウンロードしてください。

2. 単体構成+同一筐体でのバージョンアップ手順

ここでは、マスタサーバ（単体構成）を同一筐体上で Ver8.5 SP2 から Ver9.1 へバージョンアップする手順について説明します。Ver5.0～Ver9.0 SP1 から Ver9.1 SP1 へのバージョンアップでも同様の手順で行なうことができます。

マスタ/スレーブ構成の場合は、この手順は不要です。マスタ/スレーブ構成の場合は「3.複数台構成+同一筐体でのバージョンアップ手順」の手順を参照してください。

2-1. バージョンアップ作業項目について

移行環境

本バージョンアップ作業では、以下の環境でのバージョンアップを想定しています。

表 2-1

| | OS | InterSafe WebFilter |
|-----|--|-------------------------------------|
| 移行前 | Red Hat Enterprise Linux 6.6 Server(64bit) | Proxy Ver8.5 SP2 Build1003 on Linux |
| 移行後 | Red Hat Enterprise Linux 6.6 Server(64bit) | Proxy Ver9.1 Build1301 on Linux |

作業項目一覧

表 2-2

| WebFilter Ver. | 作業項目 | 作業目安時間 | 作業完了チェック |
|----------------|--|--------|----------|
| 8.5 SP2 | サービスの停止 (2-2.参照) | 5分 | |
| | Ver8.5 SP2 の conf とログディレクトリバックアップ (2-3.参照) | 10分 | |
| | Ver9.1 へバージョンアップ(2-4.参照) | 5分 | |
| 9.1 | 注意事項の確認/設定 (2-5.参照) | 10分 | |
| | URL DB ダウンロード (2-6.参照) | 5分 | |
| | バージョンアップ終了 | 計 35分 | |

2-2. サービスの停止/起動について

サービスの起動 / 停止するには、対象とするサービスごとに、ターミナルで次のコマンドを実行します。

- サービス停止 / 起動手順は、ご利用バージョンの WebFilter の管理者マニュアルもご参照ください。
- サービスの起動 / 停止は root ユーザで実行してください。

管理サービス

起動 : <インストールディレクトリ>/bin/amsadmin start

停止 : <インストールディレクトリ>/bin/amsadmin stop

拡張 Web サービス

起動 : <インストールディレクトリ>/bin/amsweb start

停止 : <インストールディレクトリ>/bin/amsweb stop

フィルタリングサービス

起動 : <インストールディレクトリ>/bin/amsproxy start

停止 : <インストールディレクトリ>/bin/amsproxy stop

集計サービス (Ver9.1 以降)※マスタのみ

起動 : <インストールディレクトリ>/bin/amscollector start

停止 : <インストールディレクトリ>/bin/amscollector stop

上記4つのサービスをまとめて起動 / 停止するには以下のコマンドを実行します。

起動 : <インストールディレクトリ>/bin/amsmain start

停止 : <インストールディレクトリ>/bin/amsmain stop

- WebFilter のデフォルトのインストールディレクトリは、「/usr/local/intersafe」となります。

2-3. 既存設定のバックアップ

既存環境のデータのバックアップを行います。

バックアップが必要なディレクトリについては以下の通りです。

表 2-3

| 説明 | バックアップするディレクトリ/ファイル |
|----------------------------|--------------------------------------|
| 設定ファイル | <インストールディレクトリ>/conf ディレクトリごと |
| 各種ログ | <インストールディレクトリ>/logs ディレクトリごと |
| 管理画面を HTTPS プロトコルで使用している場合 | <インストールディレクトリ>/tomcat/.keystore ファイル |

- WebFilter のデフォルトのインストールディレクトリは、「/usr/local/intersafe」となります。

2-4. マスタサーバの上書きインストール

Ver8.5 SP2 導入済みのサーバに Ver9.1 を上書きインストールすることで、設定情報を引き継ぐことが可能です。

- インストールの手順は、Ver9.1 の WebFilter の管理者マニュアルや Readme.txt もご参照ください。
- 予め Ver9.1 のインストールプログラムを、サーバの任意の場所にコピーしておいてください。
- WebFilter のインストールは root ユーザで実行してください。
- WebFilter のサービスを予め停止しておいてください。サービスの停止手順は、P.6 「2-2.サービスの停止/起動について」をご参照ください。

- 1) Ver9.1 のインストールファイルを実行します。

```
# /<任意のディレクトリ>/Linux/setup.sh
```

- 2) インストーラのイントロダクションが表示された後、<Enter>キーを押してインストール作業を続行します。
- 3) 使用許諾契約の内容が表示されますので、使用許諾契約の内容に同意いただける場合は、「y」を入力し <Enter>キーを押します。（使用許諾契約の内容に同意いただけない場合は、「n」を入力し<Enter>キーを押して、インストールを中止してください。）
- 4) 既存バージョンの WebFilter が検出され、上書きインストールを行うメッセージが表示されます。<Enter>キーを押し、インストールを続行します。

```
Updatable product version was detected.  
  
Installation will be executed as update mode.  
  
PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

- 5) WebFilter のサービスを停止するようメッセージが表示されます。<Enter>キーを押します。

```
If any process of InterSafe WebFilter or other programs are currently  
running, please stop them.  
  
PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

- 6) WebFilter を実行するユーザを自動設定するか選択し、<Enter>キーを押します。

```
Is the owner of the file which it installs set?  
  
When automatic setting is selected, the intersafe group and the intersafe user are drawn up  
  
->1- Automatic setting  
    2- Manual setting  
  
ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

- 6)で「1」を選択した場合、WebFilter を実行するユーザとグループが自動で設定され、確認メッセージが表示されますので、<Enter>キーを押します。

```
The owner is set in the user and the group below  
  
User:intersafe  
Group:intersafe  
  
PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

- 6)で「2」を選択した場合、手動で WebFilter を実行するユーザとグループを設定します。設定後、6)で「1」を選択した場合と同じように確認メッセージが表示されますので、<Enter>キーを押します。

- 7) OS 起動後、WebFilter を自動起動するかどうかを設定します。OS 起動後、WebFilter が自動的に起動されるように設定する場合、「1」を入力し<Enter>キーを押します。

```
->1- Automatic start registers
    2- Automatic start does not register

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

- 8) WebFilter のインストール設定内容を確認します。<Enter>キーを押すとインストールを開始します。
9) コンバート処理が実行された旨のメッセージが表示されます。<Enter>キーを押します。

```
Conversion process was executed.

Check the update.log in the install destination folder.

PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

- 10) インストールが完了し、以下のメッセージが表示されます。<Enter>キーを押します。

```
InterSafe WebFilter Ver9.1 Build1301 was installed in the following location.

/usr/local/intersafe

PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

- 11) OS パラメータの最適化を確認する画面が表示されます。最適化する場合は、「1」を入力し、<Enter>キーを押します。

- Ver7.0 以前よりバージョンアップする場合は、OS パラメータの最適化を確認する画面が表示されます。

```
This installer will change your TCP setting for this product as follows.

ip_local_port_range = 1025 65535
tcp_fin_timeout = 30

Do you want to change OS parameters?

->1- Yes
    2- No

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

- 12) インストール後、WebFilter のサービスを起動するかどうかを設定します。「1」を入力し、<Enter>キーを押します。

```
Do you want to run InterSafe WebFilter now?

->1- Yes
    2- No

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

- 13) インストールプログラムを終了します。<Enter>キーを押します。

2-5.注意事項の確認/設定

バージョンアップに伴う、既存運用から変更になる点などを確認し、必要があれば設定を変更します。
変更の内容は環境によって異なります。項目の詳細については、下記の弊社 FAQ をご参照ください。

No.2244 「バージョンアップ時の注意点などありますか？」

http://support.alsi.co.jp/faq_detail.html?id=2244&category=

- Ver9.1 で追加された機能につきましては、WebFilter Ver9.1 の管理者マニュアルをご参照の上、必要に応じて別途設定を行ってください。

2-6. URL DBダウンロード

バージョンアップ直後は、URL DB はサンプル DB となるため、手動でフル DB をダウンロードします。

- 1) マスタサーバの管理画面にアクセスします。
アクセス URL はデフォルトで「http://<マスタサーバの IP アドレス>:2319/」です。
- 2) [サーバ管理] → [データベース設定] をクリックします。

図 2-1



- 3) [データベース更新] ボタンをクリックすると、確認のダイアログが表示されます。

図 2-2



- マスタ/スレーブ構成で、マスタサーバのみ URL DB をダウンロードする場合は、マスタサーバの右にある[選択]ボタンをクリックし、[▶ ダウンロード] - [データベース更新] ボタンをクリックし、URL DB のダウンロードを行なってください。

- 4) [OK]ボタンをクリックし、URL DB をダウンロードします。
- 5) [データベース設定] 画面にて[再表示] ボタンをクリックし、[データベース情報] が更新されていることを確認します。

以上で、マスタサーバの URL DB ダウンロードは完了です。

- この時点で、最新 URL DB によるフィルタリング動作が可能になります。

3. 複数台構成+同一筐体でのバージョンアップ手順

ここでは、マスタ/スレーブ構成(複数台構成) をそれぞれ同一筐体上で Ver8.5 から Ver9.1 へバージョンアップを行う詳細について説明します。Ver5.0~Ver9.0 SP1 から Ver9.1 SP1 へのバージョンアップでも同様の手順で行なうことができます。

3-1. バージョンアップ作業項目について

移行環境

本バージョンアップ作業では、以下の環境でのバージョンアップを想定しています。

表 3-1

| | OS | InterSafe WebFilter |
|-----|--|---------------------------------|
| 移行前 | Red Hat Enterprise Linux 6.6 Server(64bit) | Proxy Ver8.5 Build0853 on Linux |
| 移行後 | Red Hat Enterprise Linux 6.6 Server(64bit) | Proxy Ver9.1 Build1301 on Linux |

作業項目一覧

バージョンアップ時の作業項目は以下の通りです。

- マスタサーバとスレーブサーバが同一バージョンになる前に管理画面を操作した場合、スレーブへの同期は行われません。マスタサーバとスレーブサーバが同一バージョンになった後に、手動で同期してください。また、可能な限り、バージョンアップ中は設定変更を行わないで下さい。

表 3-2

| 作業サーバ | 作業項目 | 作業目安時間 | 作業完了チェック |
|------------|--|-----------------------|----------|
| マスタ | マスタサーバのバージョンアップ作業（「2.単体構成+同一筐体でのバージョンアップ」をご参照ください。） ● URL DB ダウンロードはマスタサーバのみで実施します。 | 40 分 | |
| スレーブ | サービス停止 (3-2.参照) | 5 分 | |
| | Ver8.5 のログディレクトリバックアップ (3-3.参照) | 10 分 | |
| | Ver9.1 の上書きインストール (3-4.参照) | 10 分 | |
| マスタ | スレーブサーバの URL DB ダウンロード (3-5.参照) | 5 分 | |
| バージョンアップ終了 | | 計 70 分 (1 時間 10 分) | |

3-2. スレーブサーバのサービスの停止/起動について

- サービスの停止手順は、P.6「2-2.サービスの停止/起動について」をご参照ください。

3-3. スレーブサーバの既存設定のバックアップ

既存環境のバックアップを行います。バックアップが必要なディレクトリについては以下の通りです。

表 3-3

| 説明 | バックアップするディレクトリ/ファイル |
|------|--|
| 各種ログ | <WebFilter インストールディレクトリ>/logs ディレクトリごと |

- 設定ファイルはマスタサーバと同期した際、最新の情報に置き換わるためスレーブサーバ側でバックアップする必要はありません。
- WebFilter のデフォルトのインストールディレクトリは、「/usr/local/intersafe」となります。

3-4. スレーブサーバの上書きインストール

ここでは、スレーブサーバの上書きインストール手順について説明します。

- インストールの手順は、WebFilter の管理者マニュアルや Readme.txt もご参照ください。
- 予め Ver9.1 のインストールプログラムを、サーバの任意の場所にコピーしておいてください。
- WebFilter のインストールは root ユーザで実行してください。

- 1) Ver9.1 のインストールファイルを実行します。

```
# /<任意のディレクトリ>/Linux/setup.sh
```

- 2) インストーラのイントロダクションが表示された後、<Enter>キーを押してインストール作業を続行します。
- 3) 使用許諾契約の内容が表示されますので、使用許諾契約の内容に同意いただける場合は、「y」を入力し <Enter>キーを押します。(使用許諾契約の内容に同意いただけない場合は、「n」を入力し<Enter>キーを押して、インストールを中止してください。)
- 4) 既存バージョンの WebFilter が検出され、上書きインストールを行うメッセージが表示されます。<Enter>キーを押し、インストールを続行します。

```
Updatable product version was detected.  
  
Installation will be executed as update mode.  
PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

- 5) WebFilter のサービスを停止するようメッセージが表示されます。<Enter>キーを押します。

```
If any process of InterSafe WebFilter or other programs are currently running, please stop them.  
  
PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

- 6) WebFilter を実行するユーザを自動設定するか選択し、<Enter>キーを押します。

```
Is the owner of the file which it installs set?  
  
When automatic setting is selected, the intersafe group and the intersafe user are drawn up  
  
->1- Automatic setting  
    2- Manual setting  
  
ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

6)で「1」を選択した場合、WebFilterを実行するユーザとグループが自動で設定され、確認メッセージが表示されますので、<Enter>キーを押します。

```
The owner is set in the user and the group below
User:intersafe
Group:intersafe
PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

6)で「2」を選択した場合、手動でWebFilterを実行するユーザとグループを設定します。設定後、6)で「1」を選択した場合と同じように確認メッセージが表示されますので、<Enter>キーを押します。

7) WebFilterを自動起動するかどうかを設定します。WebFilterが自動的に起動されるように設定する場合、「1」を入力し<Enter>キーを押します。

```
->1- Automatic start registers
    2- Automatic start does not register

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

8) WebFilterのインストール設定内容を確認します。<Enter>キーを押すとインストールを開始します。

9) コンバート処理が実行された旨のメッセージが表示されます。<Enter>キーを押します。

```
Conversion process was executed.

Check the update.log in the install destination folder.

PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

10) インストールが完了し、以下のメッセージが表示されます。<Enter>キーを押します。

```
InterSafe WebFilter Ver9.1 Build1301 was installed in the following location.

/usr/local/intersafe

PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

11) OSパラメータの最適化を確認する画面が表示されます。最適化する場合は、「1」を入力し、<Enter>キーを押します。

● Ver7.0 以前よりバージョンアップする場合は、OSパラメータの最適化を確認する画面が表示されます。

```
This installer will change your TCP setting for this product as follows.

ip_local_port_range = 1025 65535
tcp_fin_timeout = 30

Do you want to change OS parameters?

->1- Yes
    2- No

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

12) インストール後、WebFilterのサービスを起動するかどうかを設定します。「1」を入力し、<Enter>キーを押します。

```
Do you want to run InterSafe WebFilter now?

->1- Yes
    2- No

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

13) インストールプログラムを終了します。<Enter>キーを押します。

3-5.URL DBダウンロード

バージョンアップ直後は、URL DB はサンプル DB となるため、手動でフル DB をダウンロードします。

ここではスレーブサーバのみ URL DB のダウンロードが完了していないことを想定し、管理画面よりスレーブサーバのみ URL DB ダウンロードを行います。

● 以下はマスタサーバにおける操作です。

1) [サーバ管理] → [データベース設定]をクリック(図 2-1 を参照)します。

[データベース設定]が表示されます。

2) ダウンロードを実行したいスレーブサーバの右にある[選択]ボタンをクリックします。

[データベース設定編集]が表示されます。

3) [▶ ライセンス設定]、[▶ 上位プロキシサーバ設定]に適切な値を入力します。

● [▶ ライセンス設定]では、ライセンスキー、企業・団体名、メールアドレスは必須項目です。

4) 画面右上、[保存]をクリックし、現在の設定を反映します。

5) [▶ ダウンロード] - [データベース更新] ボタンをクリックします。

確認のダイアログが表示されます。

● [▶ ダウンロード] - [データベース更新] ボタンは、マスタサーバの URL DB と対象のスレーブサーバの URL DB の DB バージョンに差異がある時のみ表示されます。マスタサーバの URL DB と差異がない場合は、[データベース設定]に戻り、[データベース更新] ボタンにて URL DB をダウンロードしてください。この場合、全てのサーバに対して URL DB のダウンロードが行われます。

6) [OK] ボタンをクリックします。

7) URL DB ダウンロード後、[データベース設定]に戻り[データベース情報]が更新されていることを確認します。

以上で、スレーブサーバのバージョンアップ作業は完了です。

4. OS バージョン変更や別筐体でのバージョンアップ手順

ここでは既存のマスタ/スレーブサーバのどちらかは稼働させたまま、新規筐体にて Ver8.5 SP2 から Ver9.1 へのバージョンアップ作業を行い、かつ既存筐体と新規筐体の OS が変更になる場合の手順の例を説明します。Ver6.0~Ver9.0SP1 から Ver9.1 SP1 へのバージョンアップでも同様の手順で行なうことができます。

- OS の変更は、Windows → Linux/Solaris などの変更は含まれません。Linux 6 → Linux 7 などへの変更が対象です。Windows → Linux/Solaris へ OS 変更をする場合は P.24 「6.異なる OS 間や別筐体でのバージョンアップ手順」をご参照ください。
- 製品の移行(ICAP 版 → Proxy 版や Proxy 版 → ICAP 版)についてはサポート対象外です。

4-1. バージョンアップ作業項目について

移行環境

本バージョンアップ作業では、以下の環境でのバージョンアップを想定しています。

表 4-1

| | OS | InterSafe WebFilter |
|-----|------------------------------------|-------------------------------------|
| 移行前 | Red Hat Enterprise Linux 6.6 64bit | Proxy Ver8.5 SP2 Build1003 on Linux |
| 移行後 | Red Hat Enterprise Linux 7.4 64bit | Proxy Ver9.1 Build1301 on Linux |

前提条件

記載されている手順は、以下を前提としております。

- Ver8.5 SP2 の情報を保持し、Ver9.1 へバージョンアップを行う。
 - 既存サーバ筐体は Ver8.5 SP2 で運用されている。
 - マスタ/スレーブサーバの新規筐体に Red Hat Enterprise Linux 7.4 OS がインストールされている。
 - Ver9.1 のインストールプログラムがマスタ/スレーブサーバの新規筐体上に保存されている。
- Ver9.1 のプログラム入手方法については、P.4 「1-2. 各バージョンプログラム入手方法について」をご参照ください。

作業項目一覧

表 4-2

| 作業筐体 | サーバ 種別 | WebFilter Ver. | 作業項目 | 作業目安 時間 | 作業完了 チェック |
|--------------|-----------|---------------------|--|-----------------------|--------------|
| 既存 (RH 6) | マスタ | 8.5 SP2 | Ver8.5 SP2 の conf ディレクトリとログディレクトリをバックアップ | 10 分 | |
| 新規(RH 7) | マスタ | | 既存筐体の Ver8.5 SP2 conf ディレクトリをコピー | 5 分 | |
| | | 8.5 SP2 ↓ 9.1 | Ver9.1 へバージョンアップ | 15 分 | |
| | | 9.1 | 注意事項の確認/設定 | 15 分 | |
| | | | URL DB ダウンロード | 5 分 | |
| 既存 (RH 6) | スレーブ | 8.5 SP2 | Ver8.5 SP2 のログディレクトリをバックアップ | 10 分 | |
| 新規(RH 7) | スレーブ | 9.1 | Ver9.1 を新規インストール | 15 分 | |
| 新規(RH 7) | マスタ | 9.1 | スレーブサーバの削除/登録 | 5 分 | |
| 新規(RH 7) | スレーブ | 9.1 | サービス再起動 | 5 分 | |
| 新規(RH 7) | マスタ | 9.1 | URL DB ダウンロード | 5 分 | |
| バージョンアップ終了 | | | | 計 90 分 (1 時間 30 分) | |

4-2.バージョンアップ手順

マスタサーバの構築

マスタサーバを新規筐体で Ver9.1 へバージョンアップします。

- 1) P.6「2-3. 既存設定のバックアップ」を参照して、既存筐体の WebFilter の設定情報をバックアップします。
- 2) 1)でバックアップしておいた設定情報を、新規筐体上の Ver9.1 のインストール場所と同じ場所にコピーします。

- WebFilter のデフォルトのインストールディレクトリは、「/usr/local/intersafe」となります。

- 3) Ver9.1 のインストールファイルを実行します。

- WebFilter のインストールは root ユーザで実行してください。

```
# /<任意のディレクトリ>/Linux/setup.sh
```

- 4) インストーラのイントロダクションが表示された後、<Enter>キーを押してインストール作業を続行します。
- 5) 使用許諾契約の内容が表示されますので、使用許諾契約の内容に同意いただける場合は、「y」を入力し <Enter>キーを押します。使用許諾契約の内容に同意いただけない場合は、「n」を入力し<Enter>キーを押して、インストールを中止してください。
- 6) インストールディレクトリを指定し、<Enter>キーを押します。

```
Only normal-width Alphanumeric character and '_' or '-' are allowed to use as
install folder name.
Whole folder path's length is restricted within 128 characters.
Select install folder.
Where Would You Like to Install?
    Default Install Folder: /usr/local/intersafe
ENTER AN ABSOLUTE PATH, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

- インストールフォルダは、2)で設定ディレクトリをコピーした場所と同じ場所を指定してください。同じ場所を指定しない場合、新規インストールとなります。

- 7) インストールディレクトリの確認メッセージが表示されますので、<Enter>キーを押します。

```
It installs to this folder.
/usr/local/intersafe
PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

- 8) コピーしておいた WebFilter の設定ディレクトリが検出され、上書きインストールを行うメッセージが表示されます。<Enter>キーを押し、インストールを続行します。

```
Updatable product version was detected.
Installation will be executed as update mode.
PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

- 9) WebFilter のサービスを停止するようメッセージが表示されます。<Enter>キーを押します。

```
If any process of InterSafe WebFilter or other programs are currently running, please stop them.
PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```


- 10) WebFilter をインストールするサーバの IP アドレスを選択して<Enter>キーを押します。

```
Please select the IP address which it utilizes as Master
->1- 192.168.1.1

ENTER THE NUMBER OF THE DESIRED CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE
DEFAULT:
```

- 11) IP アドレスの確認のメッセージが表示されるので、「Y」を入力して<Enter>キーを押します。
12) WebFilter を実行するユーザを自動設定するか選択し、<Enter>キーを押します。

```
Is the owner of the file which it installs set?

When automatic setting is selected, the intersafe group and the intersafe user are drawn up

->1- Automatic setting
   2- Manual setting

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

- 12)で「1」を選択した場合、WebFilter を実行するユーザとグループが自動で設定され、確認メッセージが表示されますので、<Enter>キーを押します。

```
The owner is set in the user and the group below
User:intersafe
Group:intersafe
PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

- 12)で「2」を選択した場合、手動で WebFilter を実行するユーザとグループを設定します。設定後、12)で「1」を選択した場合と同じように確認メッセージが表示されますので、<Enter>キーを押します。

- 13) WebFilter を自動起動するかどうかを設定します。WebFilter が自動的に起動されるように設定する場合、「1」を入力し<Enter>キーを押します。

```
->1- Automatic start registers
   2- Automatic start does not register

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

- 14) WebFilter のインストール設定内容を確認します。<Enter>キーを押すとインストールを開始します。
15) コンバート処理が実行された旨のメッセージが表示されます。<Enter>キーを押します。

```
Conversion process was executed.

Check the update.log in the install destination folder.

PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

- 16) インストールが完了し、以下のメッセージが表示されます。<Enter>キーを押します。

```
InterSafe WebFilter Ver9.1 Build1301 was installed in the following location.

/usr/local/intersafe

PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

- 17) OSパラメータの最適化を確認するメッセージが表示されます。最適化する場合は「1」選択し、<Enter>キーを押します。

```
This installer will change your TCP setting for this product as follows.
ip_local_port_range = 1025 65535
tcp_fin_timeout = 30

Do you want to change OS parameters?

->1- Yes
    2- No

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

- 18) WebFilterのサービスの起動を促すメッセージが表示されます。<Enter>キーを押しサービスを起動し、インストーラを終了します。

```
Do you want to run InterSafe WebFilter now?

->1- Yes
    2- No

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

- 19) P.8「2-5. 注意事項の確認/設定」を参照して、既存運用から変更になる点などを確認し、必要があれば設定を変更します。
20) P.9「2-6. URL DB ダウンロード」を参照して、マスタサーバのみ手動でフル URL DB をダウンロードします。

- 新規環境と既存環境を1週間以上並行稼動する場合は、ライセンスキーを重複利用しないよう、どちらかの環境用に試用版のライセンスキーをご準備ください。試用版ライセンスキーは「<https://www.alsi.co.jp/trial/iswf/>」より取得できます。

スレーブサーバの構築

スレーブサーバを新規筐体に新規インストールし、マスタサーバより同期を行います。

- 1) P.11「3-3. スレーブサーバの既存設定のバックアップ」を参照して、既存筐体のスレーブサーバのログディレクトリのバックアップを行います。
- 2) スレーブサーバの新規筐体で Ver9.1 のインストールファイルを実行します。

- WebFilterのインストールは root ユーザで実行してください。

```
# /<任意のディレクトリ>/Linux/setup.sh
```

- 3) インストーラのイントロダクションが表示された後、<Enter>キーを押してインストール作業を続行します。
- 4) 使用許諾契約の内容が表示されますので、使用許諾契約の内容に同意いただける場合は、「y」を入力し <Enter>キーを押します。使用許諾契約の内容に同意いただけない場合は、「n」を入力し<Enter>キーを押して、インストールを中止してください。
- 5) インストールディレクトリを指定し、<Enter>キーを押します。

```
Only normal-width Alphanumeric character and '_' or '-' are allowed to use as
install folder name.
Whole folder path's length is restricted within 128 characters.

Select install folder.

Where Would You Like to Install?

Default Install Folder: /usr/local/intersafe

ENTER AN ABSOLUTE PATH, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

- 6) インストールディレクトリの確認メッセージが表示されますので、<Enter>キーを押します。

```
It installs to this folder.  
  
/usr/local/intersafe  
  
PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

- 7) インストールする製品を選択します。ここでは Proxy 版をインストールしますので、「1」を入力し<Enter>キーを押します。

```
Please choose the Install Set to be installed by this installer.  
  
->1- Proxy  
    2- ICAP  
  
ENTER THE NUMBER FOR THE INSTALL SET, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT  
:
```

- 8) WebFilter のサービスを停止するようメッセージが表示されます。<Enter>キーを押します。

```
If any process of InterSafe WebFilter or other programs are currently running, please stop them.  
  
PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

- 9) サーバのインストールタイプを選択し、<Enter>キーを押します。

- ここではスレーブサーバをインストールしますので、「2」と入力します。

```
Please select server type  
  
->1- Master Server  
    2- Slave Server  
  
ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

- 10) WebFilter を実行するユーザを自動設定するか選択し、<Enter>キーを押します。

```
Is the owner of the file which it installs set?  
  
When automatic setting is selected, the intersafe group and the intersafe user are drawn up  
  
->1- Automatic setting  
    2- Manual setting  
  
ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

- 10)で「1」を選択した場合、WebFilter を実行するユーザとグループが自動で設定され、確認メッセージが表示されますので、<Enter>キーを押します。

```
The owner is set in the user and the group below  
User: intersafe  
Group: intersafe  
  
PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

- 10)で「2」を選択した場合、手動で WebFilter を実行するユーザとグループを設定します。設定後、10)で「1」を選択した場合と同じように確認メッセージが表示されますので、<Enter>キーを押します。

- 11) WebFilter を自動起動するかどうかを設定します。WebFilter が自動的に起動されるように設定する場合、「1」を入力し <Enter>キーを押します。

```
->1- Automatic start registers
    2- Automatic start does not register

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

- 12) WebFilter のインストール設定内容を確認します。<Enter>キーを押すとインストールを開始します。

- 13) インストールが完了し、以下のメッセージが表示されます。<Enter>キーを押します。

```
InterSafe WebFilter Ver9.1 Build1301 was installed in the following location.

/usr/local/intersafe

PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

- 14) OS パラメータの最適化を確認するメッセージが表示されます。最適化する場合は「1」選択し、<Enter>キーを押します。

```
This installer will change your TCP setting for this product as follows.

ip_local_port_range = 1025 65535

tcp_fin_timeout = 30

Do you want to change OS parameters?

->1- Yes
    2- No

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

- 15) WebFilter のサービスの起動を促すメッセージが表示されます。<Enter>キーを押しサービスを起動し、インストーラを終了します。

```
Do you want to run InterSafe WebFilter now?

->1- Yes
    2- No

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

- 16) マスタサーバの管理画面にアクセスします。

アクセス URL はデフォルトで 「http://<マスタサーバの IP アドレス>:2319/」 です。

- 17) [サーバ管理] → [サーバ設定] をクリックします。

図 4-1



- 18) 既存のスレーブサーバの右にある[選択]ボタンをクリックします。

図 4-2

The screenshot shows the 'サーバ設定' (Server Settings) page. At the top, there is a navigation bar with 'サーバ管理' (Server Management) selected. Below it, a red warning message states: '現在管理サービスが正常動作していないか、データ保存・復旧のBダウンロード中です。詳細はサーバ設定画面をご確認下さい。' (Are the management services not operating normally, or are you downloading the B backup/restore data? Please check the server settings page for details.)

The 'サーバ情報' (Server Information) section contains a table with the following data:

| サーバ名 | 管理サービス状態 | フィルタリングサービス状態 | フィルタリングサービス設定 | 再表示 |
|------------------|----------|------------------|---|-----------|
| デフォルトサーバ(Master) | 正常動作中 | 稼働中 再起動 起動 終了 | IPアドレス: [redacted] HTTPポート: 8080 HTTPSポート: 8443 FTP over HTTPポート: 8021 | 再表示 選択 |
| Slave | 通信不能 | 停止 再起動 起動 終了 | IPアドレス: [redacted] HTTPポート: 8080 HTTPSポート: 8443 FTP over HTTPポート: 8021 | 再表示 選択 |

- 旧スレーブサーバと疎通が取れる環境で旧スレーブサーバを削除すると、旧スレーブサーバのフィルタリングサービスと拡張Webサービスが停止します。新マスタサーバと旧スレーブサーバとは疎通が取れない環境であることを確認後、[削除]をクリックしてください。

- 19) 画面右上の[削除]ボタンをクリックします。

図 4-3

The screenshot shows the 'サーバ設定編集' (Server Settings Edit) page. At the top, there is a navigation bar with 'サーバ管理' (Server Management) selected. Below it, a red warning message states: '現在管理サービスが正常動作していないか、データ保存・復旧のBダウンロード中です。詳細はサーバ設定画面をご確認下さい。' (Are the management services not operating normally, or are you downloading the B backup/restore data? Please check the server settings page for details.)

The 'サーバ情報' (Server Information) section contains a form with the following data:

| | |
|---------|------------|
| *サーバ名 | Slave |
| *IPアドレス | [redacted] |

At the bottom right of the form, there are two buttons: '削除' (Delete) and '保存' (Save). The '削除' button is highlighted with a red box.

- 20) 確認のダイアログが表示されますので、[OK] ボタンをクリックします。

- 21) 以下のメッセージが表示される場合がありますが、マスタサーバとスレーブサーバのバージョンが異なるために発生しているので特に問題ありません。そのまま、[OK] ボタンをクリックします。

図 4-4

The screenshot shows a dialog box titled 'Web ページからのメッセージ' (Message from Web page). The message text reads: '対象サーバと通信エラーが発生しましたが、管理対象より削除しますか' (A communication error occurred with the target server, do you want to delete it from the management target?).

At the bottom of the dialog box, there are three buttons: a checkbox labeled 'このページにこれ以上メッセージの作成を許可しない' (Do not allow creation of more messages on this page), 'OK', and 'キャンセル' (Cancel). The 'OK' button is highlighted with a red box.

- 22) 「削除が完了しました。」のメッセージが表示され、管理画面よりスレーブサーバが削除されます。続いて新規スレーブサーバを登録するため、[+サーバを追加] をクリックします。

図 4-5



- 23) スレーブサーバの情報を入力します。
24) 画面右上の [保存] ボタンをクリックします。
25) 確認のダイアログが表示されますので、[OK] ボタンをクリックします。
26) 「登録が完了しました」と表示されます。
27) 登録したスレーブサーバの全てのサービスを再起動してください。

```
# /<WebFilter インストールディレクトリ>/bin/amsmain stop  
# /<WebFilter インストールディレクトリ>/bin/amsmain start
```

- WebFilter の起動と停止は root ユーザで実行してください。
- WebFilter のデフォルトのインストールディレクトリは、「/usr/local/intersafe」となります。

- 28) P.13 「3-5. URL DB ダウンロード」を参照して、スレーブサーバのみ手動でフル URL DB をダウンロードします。

- 新規環境と既存環境を 1 週間以上並行稼動する場合は、ライセンスキーを重複利用しないよう、どちらかの環境用に試用版のライセンスキーをご準備ください。試用版ライセンスキーは「<https://www.alsi.co.jp/trial/iswf/>」より取得できます。

以上で、バージョンアップ作業は完了です。

5.製品変更を伴うバージョンアップについて

Ver7.0 以前の Squid 版をご利用のお客様が Ver9.1 SP1 のインストールプログラムを実行した場合、自動的に Ver9.1 SP1 ICAP 版へのバージョンアップとなります。バージョンアップ時、WebFilter の設定ファイルはそのまま引き継がれますが、別途 ICAP クライアントの設定が必要です。ここでは、Squid を ICAP クライアントとした場合の設定手順について説明します。

- Squid のバージョンが 3.1 より古い場合、Squid を 3.1 以降にバージョンアップする必要があります。

Squid のインストール

Squid を ICAP クライアントとして利用するには、Squid インストール時の configure のオプションで"--enable-icap-client"を追加してください。

- Squid インストール時のオプションについては、WebFilter の管理者マニュアルの「1-5. ICAP クライアントの設定」や Web、文献等を参照してください。

■ Squid インストール時の実行例

```
# ./configure --enable-icap-client
# make
# make install
```

Squid の設定

Squid の設定ファイル(squid.conf)に ICAP 連携の設定を記述します。

■ squid.conf の記述例

```
#Squid の ICAP 設定
icap_enable on
icap_service service_1 reqmod_precache 0 icap://<WebFilter サーバ IP>:1344
adaptation_service_set service_set_1 service_1
adaptation_access service_set_1 allow all
icap_send_client_ip on
#リダイレクトプログラムの起動記述をコメントアウト
#redirect_program /usr/local/intersafe/bin/amsrdr start
#redirect_children 5
```

- Squid の設定については Web や文献等をご参照ください。

6. 異なる OS 間や別筐体でのバージョンアップ手順

Ver8.5 以降では、異なる OS 間や別筐体での設定の保存/復旧をサポートしています。

ここでは、保存/復旧機能を使って、異なる OS 間でバージョンアップ手順の例を説明します。Ver9.1 SP1 でも同様の手順で実施可能です。

- 異なる OS とは Windows → Linux / Solaris、Linux ⇄ Solaris への変更を示しています。また、32bit → 64bit と OS のアーキテクチャが変更になる場合もこちらの手順でバージョンアップが可能です。
- 設定ファイルの保存/復旧を行う場合、新旧サーバは同じバージョン、ビルドある必要があります。

6-1. バージョンアップ作業項目について

移行環境

本バージョンアップ作業では、以下の環境でのバージョンアップを想定しています。

表 6-1

| | OS | InterSafe WebFilter |
|-----|---|---------------------------------------|
| 移行前 | 日本語版 Microsoft Windows Server 2012 R2 64bit | Proxy Ver8.5 SP1 Build0876 on Windows |
| 移行後 | Redhat Linux 7.4 64bit | Proxy Ver9.1 Build1301 on Linux |

前提条件

記載されている手順は、以下を前提としております。

- Ver8.5 SP1 の情報を保持し、Ver9.1 へバージョンアップを行う。
 - 既存サーバ筐体は Ver8.5 SP1 で運用されている。
 - 旧環境の OS が Ver9.1 のサポート対象 OS である。もしくは旧環境の WebFilter を Ver9.1 までバージョンアップできる環境が用意されている。
 - 新規筐体に Redhat Linux 7.4 OS がインストールされている。
 - Ver9.1 のインストールプログラムが旧/新規筐体のサーバ上に保存されている。
- Ver9.1 のプログラム入手方法については、P.4 「1-2. 各バージョンプログラム入手方法について」をご参照ください。

作業項目一覧

表 6-2

| 作業筐体 | WebFilter Ver. | 作業項目 | 作業目安時間 | 作業完了チェック |
|-----------------|---------------------------|--|-----------------------|----------|
| 既存 (Win2012) | 8.5 | サービスの停止 | 約 5 分 | |
| | | Ver8.5 SP1 の conf フォルダとログフォルダをバックアップ | 約 10 分 | |
| | ↓ | Ver9.1 へバージョンアップ → サービス起動 | 約 10 分 | |
| | 9.1 | | | |
| 9.1 | 設定ファイルの保存 | 約 5 分 | | |
| | | 新規サーバへ保存した設定ファイルのコピー | 約 5 分 | |
| 新規(RH7) | 9.1 | Ver9.1 を新規インストール | 約 10 分 | |
| | | 設定ファイルの復旧 → サービス再起動 | 約 10 分 | |
| | | 注意事項の確認/設定 | 約 15 分 | |
| | | URL DB ダウンロード | 約 5 分 | |
| バージョンアップ終了 | | | 計 75 分 (1 時間 15 分) | |

6-2. バージョンアップ手順

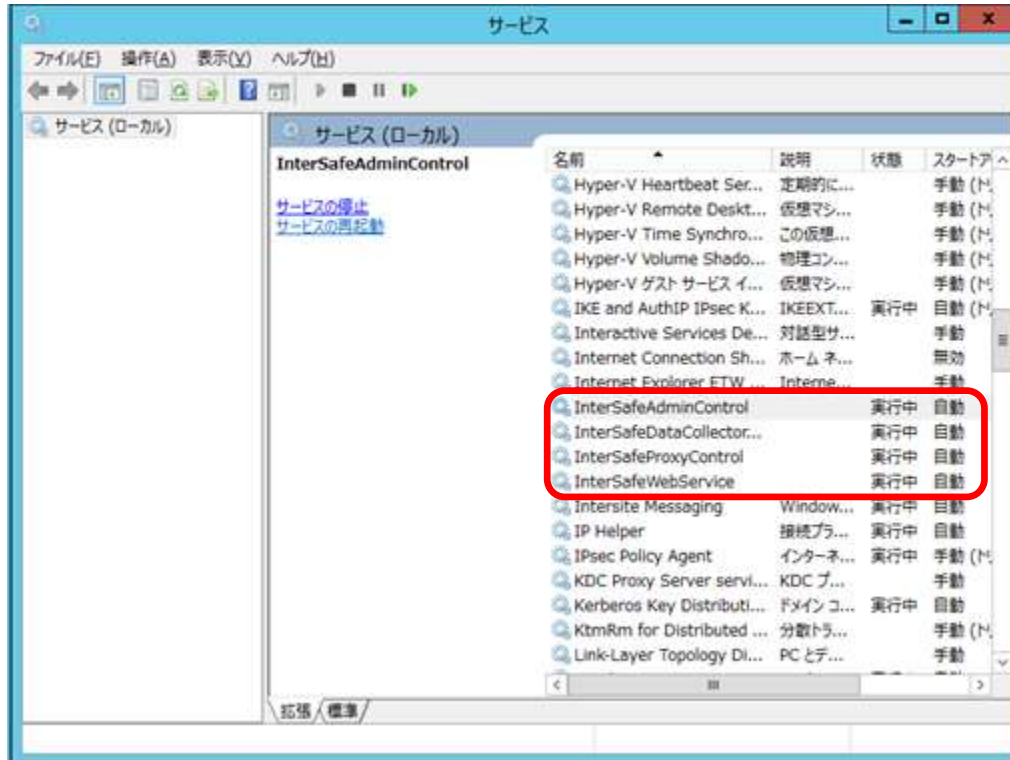
既存サーバのバージョンアップ

既存サーバを Ver9.1 へバージョンアップします。

- インストールの手順は、WebFilter の管理者マニュアルや Readme.txt もご参照ください。
 - 予め Ver9.1 のインストールプログラムを、サーバの任意の場所にコピーしておいてください。
- 1) インストールを実行するコンピュータに管理者(Administrator)権限を持つユーザーアカウントでログインします。
 - 2) サービスを停止します。
- サービス停止手順は、ご利用バージョンの WebFilter の管理者マニュアルもご参照ください。

3) [スタート] → [コントロールパネル]を開き、[管理ツール]の[サービス]を開きます。

図 6-1



4) 停止したいサービスを選択して、[操作]メニューかサービスを右クリックし、[停止]します。

WebFilter で使用しているサービスは以下の 4 つです。

- ・ InterSafeAdminControl : 管理サービス
- ・ InterSafeProxyControl : フィルタリングサービス
- ・ InterSafeWebService : 拡張 Web サービス
- ・ InterSafeDataCollectorControl : 集計サービス (Ver9.0 以降)※マスタのみ

5) 既存環境のデータのバックアップを行います。バックアップが必要なフォルダについては以下の通りです。

表 6-3

| 説明 | バックアップするフォルダ/ファイル |
|----------------------------|--|
| 設定ファイル | <WebFilter インストールフォルダ>%conf フォルダごと |
| 各種ログ | <WebFilter インストールフォルダ>%logs フォルダごと |
| 管理画面を HTTPS プロトコルで使用している場合 | <WebFilter インストールフォルダ>%tomcat%.keystore ファイル |

- WebFilter のデフォルトのインストールフォルダは、「C:¥InterSafe」となります。

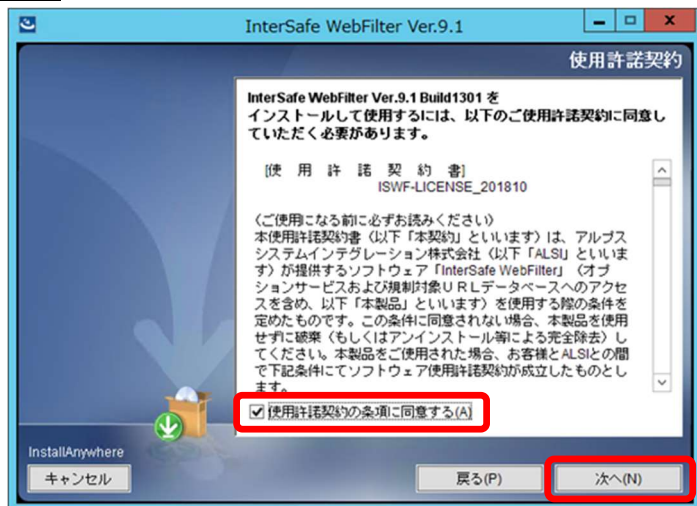
- 6) Ver9.1のインストールプログラム「setup.exe」を実行します。セットアッププログラムが起動しますので「次へ」を選択します。

図 6-2



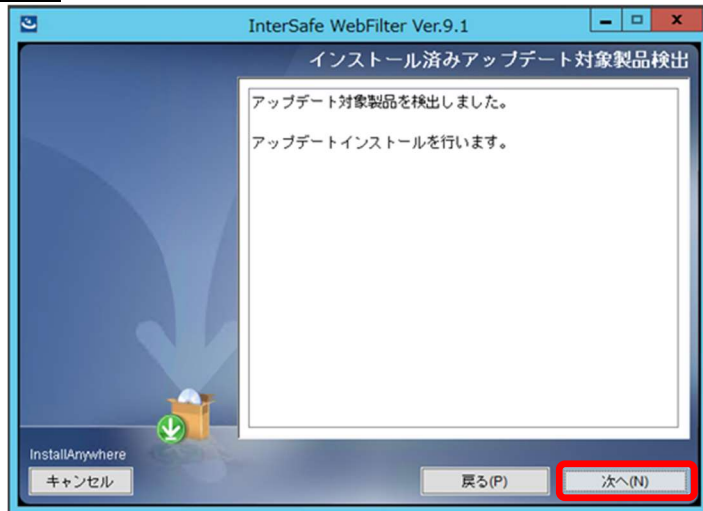
- 7) 使用許諾画面が表示されますので、同意していただき、「次へ」を選択します。

図 6-3



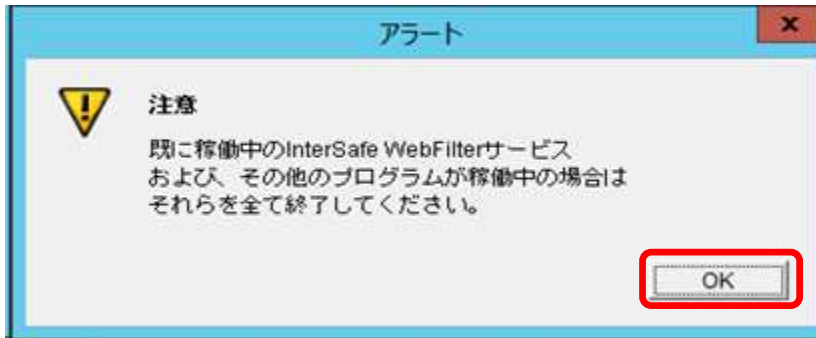
- 8) バージョンアップの場合、自動でアップデート検出を行います。「次へ」を選択します。

図 6-4



- 9) サービス停止の警告画面が表示されますので、サービスが稼働中の場合は停止します。停止したら「OK」を選択します。

図 6-5



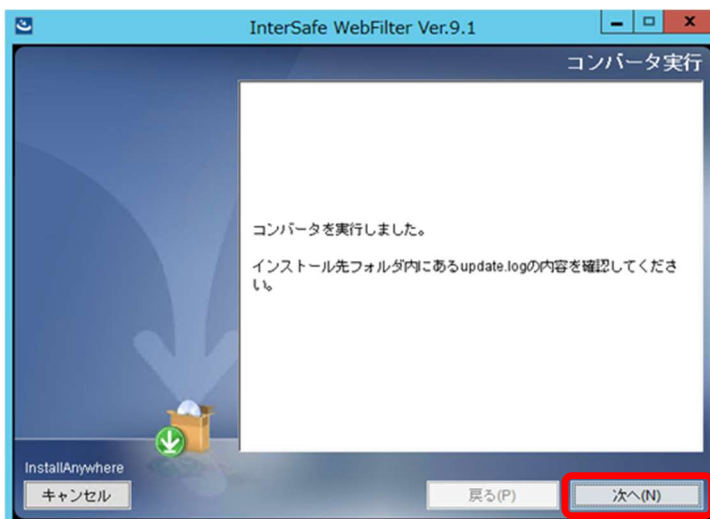
- 10) インストール確認画面が表示されます。内容に問題がない場合、「インストール」を選択します。

図 6-6



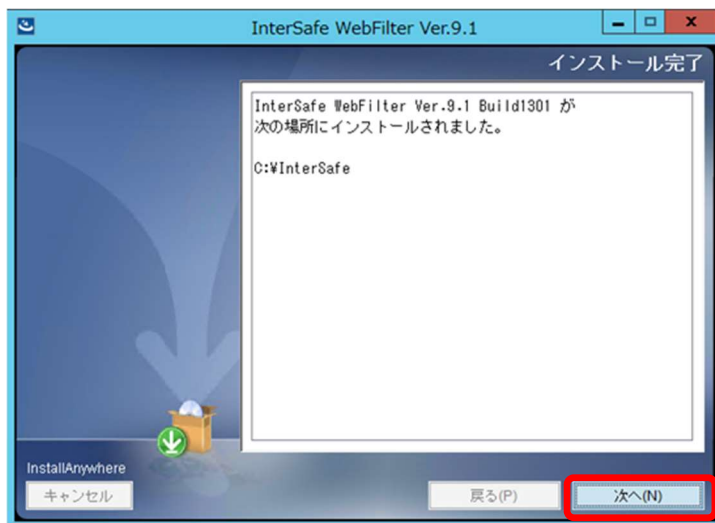
- 11) コンバート処理の完了画面が表示されますので、「次へ」を選択します。

図 6-7



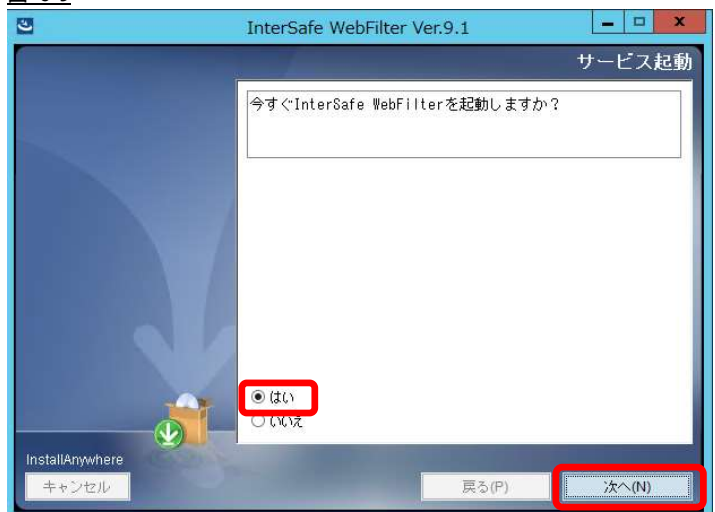
12) インストールした内容が表示されますので、「次へ」を選択します。

図 6-8



13) インストールが完了するとサービスの起動を要求されますので、[はい]を選択し、「次へ」を選択しサービスを起動します。

図 6-9



14) サービスが起動しましたら、Windows 版の Ver8.5 から Ver9.1 へのバージョンアップは完了です。

図 6-10



設定ファイルの保存

- 1) 任意の PC でブラウザを起動し、管理画面にアクセスします。
アクセス URL はデフォルトで「http://<マスタサーバの IP アドレス>:2319/」です。
- 2) [設定情報管理] → [保存/復旧/同期] をクリックします。

図 6-11



- 3) [▶ 保存/復旧] の「現在の状態を保存する」を選択します。任意のファイル名を入力し、[保存] ボタンをクリックします。

図 6-12



- 4) 移行先の WebFilter の管理画面を操作可能な PC の任意の場所に、保存したバックアップファイルをコピーします。

- 保存したバックアップファイルは、管理画面上でファイル名をクリックするとダウンロードできます。または、WebFilter サーバの以下の場所に保存されていますので、こちらからも取得が可能です。
<WebFilter インストールフォルダ>¥ backup¥save¥ファイル名.zip.ams
WebFilter のデフォルトのインストールフォルダは、「C:¥InterSafe」となります。

新規サーバの構築

新規サーバに Ver9.1 を新規インストールします。

- インストールの手順は、WebFilter の管理者マニュアルや Readme.txt もご参照ください。
 - 予め Ver9.1 のイントールプログラムを、サーバの任意の場所にコピーしておいてください。
 - WebFilter のインストールは root ユーザで実行してください。
- 1) Ver9.1 のインストールファイルを実行します。

```
# /<任意のディレクトリ>/Linux/setup.sh
```
 - 2) インストーラのイントロダクションが表示された後、<Enter>キーを押してインストール作業を続行します。
 - 3) 使用許諾契約の内容が表示されますので、使用許諾契約の内容に同意いただける場合は、「y」を入力し <Enter>キーを押します。使用許諾契約の内容に同意いただけない場合は、「n」を入力し <Enter>キーを押して、インストールを中止してください。

- 4) インストールディレクトリを指定し、<Enter>キーを押します。

```
Only normal-width Alphanumeric character and '_' or '-' are allowed to use as
install folder name.
Whole folder path's length is restricted within 128 characters.
Select install folder.
Where Would You Like to Install?
    Default Install Folder: /usr/local/intersafe
ENTER AN ABSOLUTE PATH, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

- 5) インストールディレクトリの確認メッセージが表示されますので、<Enter>キーを押します。

```
It installs to this folder.
/usr/local/intersafe
PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

- 6) インストールする製品を選択します。ここでは Proxy 版をインストールしますので、「1」を入力し<Enter>キーを押します。

```
Please choose the Install Set to be installed by this installer.
->1- Proxy
    2- ICAP
ENTER THE NUMBER FOR THE INSTALL SET, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT
:
```

- 7) WebFilter のサービスを停止するようメッセージが表示されます。<Enter>キーを押します。

```
If any process of InterSafe WebFilter or other programs are currently running, please stop them.
PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

- 8) サーバのインストールタイプを選択し、<Enter>キーを押します。

- ここではマスタサーバをインストールしますので、「1」と入力します。

```
Please select server type
->1- Master Server
    2- Slave Server
ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

- 9) WebFilter をインストールするサーバの IP アドレスを選択して<Enter>キーを押します。

```
Please select the IP address which it utilizes as Master
->1- 192.168.1.1
ENTER THE NUMBER OF THE DESIRED CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE
DEFAULT:
```

- 10) IP アドレスの確認のメッセージが表示されるので、「Y」を入力して<Enter>キーを押します。

- 11) WebFilter を実行するユーザを自動設定するか選択し、<Enter>キーを押します。

```
Is the owner of the file which it installs set?

When automatic setting is selected, the intersafe group and the intersafe user are drawn up

->1- Automatic setting
   2- Manual setting

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

11)で「1」を選択した場合、WebFilter を実行するユーザとグループが自動で設定され、確認メッセージが表示されますので、<Enter>キーを押します。

```
The owner is set in the user and the group below
User:intersafe
Group:intersafe
PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

11)で「2」を選択した場合、手動で WebFilter を実行するユーザとグループを設定します。設定後、11)で「1」を選択した場合と同じように確認メッセージが表示されますので、<Enter>キーを押します。

- 12) WebFilter を自動起動するかどうかを設定します。WebFilter が自動的に起動されるように設定する場合、「1」を入力し <Enter>キーを押します。

```
->1- Automatic start registers
   2- Automatic start does not register

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

- 13) WebFilter のインストール設定内容を確認します。<Enter>キーを押すとインストールを開始します。

- 14) インストールが完了し、以下のメッセージが表示されます。<Enter>キーを押します。

```
InterSafe WebFilter Ver9.1 Build1301 was installed in the following location.
/usr/local/intersafe

PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

- 15) OS パラメータの最適化を確認するメッセージが表示されます。最適化する場合は「1」選択し、<Enter>キーを押します。

```
This installer will change your TCP setting for this product as follows.
ip_local_port_range = 1025 65535
tcp_fin_timeout = 30

Do you want to change OS parameters?

->1- Yes
   2- No

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```

- 16) WebFilter のサービスの起動を促すメッセージが表示されます。サービスを起動する場合は「1」を選択し、<Enter>キーを押しサービスを起動します。

```
Do you want to run InterSafe WebFilter now?

->1- Yes
   2- No

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:
```


- 17) インストールプログラムを終了します。<Enter>キーを押します。
- 18) 16)で「2」を選択した場合は、手動で WebFilter を起動してください。

```
# /<WebFilter インストールディレクトリ>/bin/amsmain start
```

- WebFilter の起動と停止は root ユーザで実行してください。
- WebFilter のデフォルトのインストールディレクトリは、「/usr/local/intersafe」となります。

設定ファイルの復旧

- 1) 任意の PC でブラウザを起動し、新規サーバの管理画面にアクセスします。
アクセス URL はデフォルトで「http://<マスターサーバの IP アドレス>:2319/」です。
- 2) [設定情報管理] → [保存/復旧/同期] をクリックします。

図 6-13



- 3) [▶ 保存/復旧]の「アップロードして保存する」を選択します。[参照]ボタンをクリックし、P30.の 4)で保存したファイルを選択し、[保存] ボタンをクリックします。

図 6-14



- 4) 保存確認の画面が表示されますので、「OK」をクリックします。
- 5) 一覧にアップロードしたファイルが表示されますので、そのファイルを選択し、[復旧] ボタンをクリックします。

図 6-15



6) 復旧確認の画面が表示されますので、「OK」をクリックします。

- 3)で保存した設定ファイルにスレーブサーバが登録されている場合、移行後のマスターサーバとスレーブサーバで疎通が取れる環境で[復旧]を実施すると、スレーブサーバに紐付いているマスターサーバの IP が変更されます。新マスターサーバとスレーブサーバで疎通が取れない環境であることをご確認後、[復旧]を実施してください。

7) 復旧処理が完了したメッセージが表示されますので、すべてのサービスを再起動してください。

```
# /<WebFilter インストールディレクトリ>/bin/amsmain stop
# /<WebFilter インストールディレクトリ>/bin/amsmain start
```

- WebFilter の起動と停止は root ユーザで実行してください。
- WebFilter のデフォルトのインストールディレクトリは、「/usr/local/intersafe」となります。

注意事項の確認/設定

P.8 「2-5.注意事項の確認/設定」を参照して、必要があれば設定を変更します。

URL DB ダウンロード

P.9 「2-6. URL DB ダウンロード」を参照して、手動でフル URL DB をダウンロードします

以上で、バージョンアップ作業は完了です。

7. 障害時のリカバリについて

マスタサーバのバージョンアップ時に何らかの理由で障害が発生し、旧バージョンヘダウングレードする場合は、以下の手順にて実施してください。

■ 旧バージョンのインストーラがある場合

- 1) インストールされたままの WebFilter があればアンインストールを行います。
- 2) バックアップしておいた旧バージョンの設定フォルダ(conf フォルダ)を、以前と同じ場所にコピーします。

● WebFilter のデフォルトのインストールフォルダは、「/usr/local/intersafe」となります。

- 3) 旧サーバのインストーラを実行することで、設定ファイルをコンバートしながら、旧サーバのインストールを行います。

■ 旧バージョンが Hotfix など、パッチの場合

- 1) インストールされたままの WebFilter があればアンインストールを行います。
- 2) バックアップしておいた旧バージョンの設定フォルダ(conf フォルダ)と同じバージョンになるまで、インストールを行います。

(例) Ver9.0 Build1101 をインストール → パッチ Ver9.0 SP1 Build1206 を適用 など)

- 3) 設定フォルダを上書きします。
- 4) 上書き後は WebFilter のすべてのサービスを再起動してください。

スレーブサーバのリカバリについて

スレーブサーバは、マスタサーバリカバリ後、マスタサーバと同じバージョンに再インストール後、管理画面よりスレーブサーバの再登録を行なってください。

8. Ver9.1 SP1 での変更内容について

Ver9.1 SP1 へのバージョンアップにより、運用に影響が発生する可能性のある項目について記述します。

8-1. 注意事項

バージョンアップ時の注意事項について、以下の弊社 FAQ に詳細を記載した資料が掲載されていますので、ご参照の上別途設定を行なってください。

No.2244 「バージョンアップ時の注意点などありますか？」

http://support.alsi.co.jp/faq_detail.html?id=2244&category=

- Ver9.1 SP1 に追加された機能につきましては、FAQNo.2244 に添付の資料、もしくは WebFilter の管理者マニュアルをご参照の上、必要に応じて別途設定を行ってください。

8-2. バージョンアップによる機能追加

Ver9.1 から Ver9.1 SP1 へのバージョンアップにより追加された機能の概要を一覧にまとめました。

表 8-1

| 項目 | 内容 |
|--------|----------------------------------|
| 規制画面拡張 | 規制画面から認証局証明書のダウンロードができるようになりました |
| | 規制画面に規制したサーバ名と規制時間が表示されるようになりました |
| CLI 拡張 | amsaccount -search の追加 |
| | amsurl -add、amsurl -clear の追加 |

8-3. 設定ファイルの違い

Ver9.0 SP1～Ver9.1 SP1 の設定ファイルの初期値の違いについて一覧にまとめました。

表 8-2

| 項目名 | Ver9.1 SP1 | Ver9.1 | Ver9.0 SP1 | 内容 |
|-----------------|------------|--------|------------|--|
| [SYSTEM.UPDATE] | | | | |
| PLURAL_DOWNLOAD | TRUE | FALSE | FALSE | DB ダウンロードを一日複数回行うかどうかを設定する。 TRUE: 一日複数回のダウンロードを行う FALSE: 一日 1 回ダウンロードを行う |

9. バージョンアップ時の FAQ

Q1. Ver9.1 SP1 と Ver9.1 や Ver9.0 以前のバージョンが混在した場合、WebFilter のサービスに影響はありますか？

(WebFilter は全てマスタサーバ)

混在における影響はマスタ・スレーブの関係・設定時に発生するため、すべてマスタ環境であれば特に影響はありません。

Q2. バージョンアップ時サーバがダウンした場合、WebFilter の再インストールは必要ですか？

新規インストール・バージョンアップウィザードが正常に終了しているのであれば、一般的には問題ありませんので再インストールの必要性はございません。ただしサービス起動時にエラーなどにより起動が出来なかった場合、および原因の特定が出来なかった場合、切り分けとして再度インストールをお願いする可能性がございます。(万が一サービスを停止する期間が長くなってしまう場合、バックアップファイルを用い旧バージョンに差し戻すことをお勧めします。)

Q3. マスタサーバの冗長化はできますか？

できません。

Q4. マスタサーバ故障時の復旧方法は？バージョンアップが失敗した時のリカバリ方法は？

バージョンアップ前/後、どちらであっても設定ファイルのバックアップがあれば、復旧/リカバリは可能です。復旧/リカバリの手順は以下になります。スレーブサーバはマスタサーバ復旧/リカバリ後、マスタサーバと同じバージョンにしてから再度管理画面よりスレーブサーバの登録を行なってください。具体的な手順は P.35 「7. 障害時のリカバリについて」をご参照ください。

Q5. マスタサーバの故障時、スレーブサーバのみで運用できますか？

フィルタリングサービスに関しては可能です。ただしマスタサーバが存在しない場合は管理画面を利用した設定変更やユーザ管理などの操作が出来なくなります。

Q6. Ver8.5 を Solaris OS で利用していますが Ver9.1 SP1 でも利用できますか？

最新版の InterSafe WebFilter は SolarisOS に対応していません。LinuxOS への変更をお願いいたします。

※Solaris の対応状況は以下の通りです。(○：対応 ×：未対応)

Ver8.5 → ○、Ver8.5 SP1 → ○、Ver8.5 SP2 → ×、Ver9.0 → ×、Ver9.1 SP1 → ×、Ver9.1 → ×、Ver9.1 SP1 → ×

Q7. OS をリプレイスしてバージョンアップしたいのですが、本手順書の 4 と 6 のどちらの手順がいいのでしょうか？

変更する OS の種類によって、どちらかの手順でバージョンアップを行ってください。

- ・LinuxOS → LinuxOS、SolarisOS → SolarisOS の場合 → P.14 「4.OS バージョン変更や別筐体でのバージョンアップ手順」と P.24 「6.異なる OS 間や別筐体でのバージョンアップ手順」のどちらの方法でもバージョンアップが可能です。
- ・WindowsOS → Linux/SolarisOS の場合 → P.24 「6.異なる OS 間や別筐体でのバージョンアップ手順」の方法でバージョンアップが可能です。

Q8. Ver7.0 Squid 版を利用していますが Ver9.1 SP1 でも利用できますか？

Ver7.0 の Squid 版をバージョンアップすると、自動的に Ver9.1 SP1 ICAP 版に変更されます。Squid 版をご利用になりたい場合、そのまま Ver7.0 をご利用ください。

なお、Ver7.0 はすでにサポートが終了しています。お早めにバージョンアップを実施してください。

Q9. バージョンアップに失敗するとどうなりますか？

バージョンアップ中何らかの理由でバージョンアップに失敗すると、クリアインストールされ設定は引き継がれません。その場合、/usr/local/intersafe/backup/save フォルダ以下にバージョンアップ前の conf フォルダがバックアップされているので、一旦 Ver9.1 SP1 をアンインストール後、再度バージョンアップをお試しください。

10. InterSafe WebFilter サポート窓口について

WebFilter について不明点等ございましたら、下記のサポート窓口までお問い合わせください。

メール : support@alsi.co.jp

お問い合わせフォーム : https://alsifaq.dqa.jp/support_form.html

InterSafeWebFilter Ver9.1 バージョンアップ ユーザーズガイド

2020年6月 第2版

作成/発行/企画 アルプスシステムインテグレーション株式会社

〒145-0067 東京都大田区雪谷大塚町 1-7

※記載されている会社名および商品名は、各社の商標もしくは登録商標です。

- ・本書の内容は将来予告なしに変更することがあります。
- ・本書の内容の一部、または全部を無断で転載、あるいは複写することを禁じます。
- ・本書の内容については万全を期して作成致しましたが、万一記載に誤りや不完全な点がありましたらご容赦ください。